

# 自己評価表

TAKUMI 三鷹教室

		チェック項目	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	法令を遵守したスペースは勿論のこと、建築基準法による用途を変更し運動のできるスペースを確保している。 集団クラスで子どもが多い時は、サーキットを2つまたは小グループに分けて、運動量が確保できるように工夫している。
	②	職員の配置数は適切であるか	法令で定められている配置数に加え、保育士、児童指導員等、その他指導員のいずれかを1名から2名以上を配置する体制をとっており、しっかりサポートできる配置を行っている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	建築基準法に基づき、入口にはスロープ、トイレには車いす対応の手摺等を取り付け、バリアフリー化の配慮を行っている。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	ヒヤリハット、事故対策、会議議事録、感染対策、虐待防止対策、研修実施議事録、相談苦情、非常災害対策等々の担当者を割り振り、定期的なミーティングを行っている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	保護者向けアンケートを今年1月に2回目として実施し、評価の悪い項目については、今後計画的に改善を図っていく。また、顧客満足度調査を次年度には実施し、業務改善に繋げていきたいと考えている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	当社ホームページで公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	現在第三者による外部評価は行っていないが、今後3年に1回は実施していきたいと考えている。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	外部研修（三鷹市主催の連続研修等）に積極的に参加している。社内研修としては、原則的に全員参加の研修を、外部講師を招き行なっている。新入社員に対しては、一定期間、新人研修マニュアルに基いて必ず行なっている。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	児発管と指導員が、子どもの様子と保護者の要望を確認しながら、個別支援計画を作成している。保護者（本人）のニーズは、面談時だけでなく毎回のフィードバック時にも申し出て頂いている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	現在標準化されたアセスメントツールは使用していないが、適応行動の状況は日々のミーティングで確認している。次年度中には標準化されたアセスメントツールを用意していきたいと考えている。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	児発管と指導員が話し合い、プログラムの立案を行っている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	運動は集団ごと、季節ごとでプログラムを変えるだけでなく、集団の特性に応じ、またその日の子どもの様子に応じてフレキシブルに変えている。創作は年間計画に則って子どもの様子を見ながら、必要に応じ変更している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	当事業所は日曜日が定休日であるが、土曜日午前中に課外活動として屋外でフットサルを行なっている。土曜日午後は、平日に利用が難しい中学生を中心に運動療育を行っている。夏期休暇時は、特別プログラムも行なっている。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	小集団クラスと集団クラスを設けており、契約時に適性を見極め各々のクラス設定を行っている。子どもの成長に応じ、クラス変更を児発管、指導員、保護者、子どもの意見を聞きながら行っている。年度替わりのクラス編成時にも、小集団クラスと集団クラスの見極めを行い、保護者への説明も行っている。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出しミーティングの中で、支援方法や役割分担を行っている。

# 自己評価表

TAKUMI 三鷹教室

	チェック項目	改善目標、工夫している点など
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を設け、一日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点を洗い出している。記録を必ず残し、休みのスタッフへも情報共有を図っている。
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	サービス提供記録へ記入し、更に独自の一日の情報記録用紙(子どもの一言情報)にも記入し、検証している。
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、モニタリングをして計画の見直しの必要性を判断している。
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	総則の基本活動の中の「地域交流の機会」については、時間的な制約やプログラムの特性から行えていないが、それ以外は、基本活動を組み合わせ、学習、運動、創作から屋外での課外活動まで行っている。
関係機関や保護者との連携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	相談支援事業所のサービス担当者会議がある時は、児発管が必ず参加している。また、現在は業務の都合上、児発管のみが参加しているが、将来的には指導員の参加も検討していきたい。
	㉑ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	送迎サービスがないこともあり、学校との情報共有は行っていないが、保護者から間接的に学校情報をもらうことはある。また、ある程度の下校時間は把握しているため、来所時間が遅れた場合は保護者に連絡を入れている。
	㉒ 医療的ケアが必要な子供を受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	当事業所には、医療スタッフが存在しないことと、医療的ケアの必要なお子さまも通所していないが、今後受け入れる場合は、主治医との連絡体制を考えていきたい。
	㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	現在は就学前の各園との情報共有等は行っていないが、保護者へのヒアリングを通じて情報共有は図っている。今後、必要に応じ検討していきたい。
	㉔ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	過去に放課後等デイサービスを卒業した児童はいないが、支援内容の情報を提供できる体制は整っている。
	㉕ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	三鷹市主催の公開セミナーや発達支援センターの連続研修に積極的に参加し、その場で助言を受けている。
	㉖ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	現在は限られた営業時間の中で実施するのは難しく実施していないが、保護者からの声も確認し、今後、必要に応じ検討していきたい。
	㉗ (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	三鷹市の放課後等デイサービス連絡会に毎回参加し、連携をとっている。
	㉘ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	支援終了後に保護者とのフィードバックの時間を設け、希望に応じ学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。
	㉙ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	ペアレント・トレーニングは特に実施していないが、日々のフィードバックの中で、子ども対応について親へのアドバイスを行っている。また面談時に相談を受けた場合も、指導員が回答するなどして支援を行なっている。
保護	⑳ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な状況で説明している。

# 自己評価表

TAKUMI 三鷹教室

		チェック項目	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	⑳	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	指導員や児発管が悩みを話せるように声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できないときは、スタッフ間でミーティングを行い回答するように心がけている。また、電話で経過を伺うなどして相談に応じている。
	㉑	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	父母の会や保護者会は行っていないが、通所時にお子さまの療育に支障がない場合は、保護者の見学スペースを設けており、そこで保護者同士で情報交換や相談等を行っている。
	㉒	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	苦情・要望については、受けた時点で都度対応し早急に改善している。意見箱の設置や専用お問い合わせ窓口の設置は今後必要に応じ検討していきたい。
	㉓	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	会報等は発行していないが、長期休暇に行う特別プログラムの案内や新入社員紹介などは契約者全員に紙面で発信している。また連絡事項は事業所内の分かりやすい場所に掲示している。
	㉔	個人情報に十分注意しているか	個人情報と思われる資料、個人名の入った書類等は、シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしているが、PC等からの個人情報へのアクセスについては、まだ不十分な面があるため、今後必要に応じ検討していきたい。
	㉕	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	視覚的に障がいのある子どもに対しては、見えやすいよう、物の形状や声がけなど伝達の工夫をし、安全面への配慮も行っているが、それ以外は特にしていないため、今後必要に応じ検討していきたい。
	㉖	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していきたい。
非常時等の対応	㉗	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	左記マニュアル類は存在し、職員には周知しているが、保護者への周知はまだできていないため、今後、周知していきたい。
	㉘	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	通所の療育中に、避難訓練を行っている。
	㉙	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	他事業所で東京都主催の虐待防止の研修に参加参加した者が講師となり講習したり、虐待防止の資料をもとに内部研修を行なっている。児発管兼管理者が東京都主催の虐待防止の研修に参加する予定。
	㉚	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	事業所内に拘束を行う方針がないため未対応であるが、自傷他害のお子さまがいた場合には、身体を押さえたり職員と一緒に別室に入ったりしている。今後必要に応じ検討し、内容を契約時にも伝えていきたい。
	㉛	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	契約面談時のフェイスシートと面談により、食物アレルギーについては聴取している。事務所内に一覧表を貼り出し、「おやつ」ではアレルギー源を含むものは提供していない。今後必要に応じ医師の指示書の必要性を検討していきたい。
	㉜	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	その都度記録し、全職員で共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践している。